

AI for Science の推進に向けた基本的な戦略方針（具体的目標例）

資料 1-2
AI for Scienceを支える研究データの管理・利活用
と流通の在り方ワーキンググループ(第3回)
令和8年3月26日

AI for Science推進委員会（第2回）
令和8年3月10日 資料 1-2 より

- 我が国の AI for Science の取組は、科学研究のあり方そのものを変える国家的挑戦。
- 第7期科学技術・イノベーション基本計画（2026～30年度）期間となる**今後5年間を集中改革期間と位置づけ、スピード感を持って推進するため具体的なアクションを設定し、大胆な投資により取組を加速する。**

<研究>

① AI for Scienceの推進により世界を先導する科学研究成果を創出し、
Top10%論文のうちAI関連論文数を世界3位へ（2035年までに）

世界を先導する
科学研究成果の創出

② あらゆる分野でAI for Scienceを波及・振興し、
AI関連論文数割合を世界10位→5位、AI高度研究人材を5年で1000人増

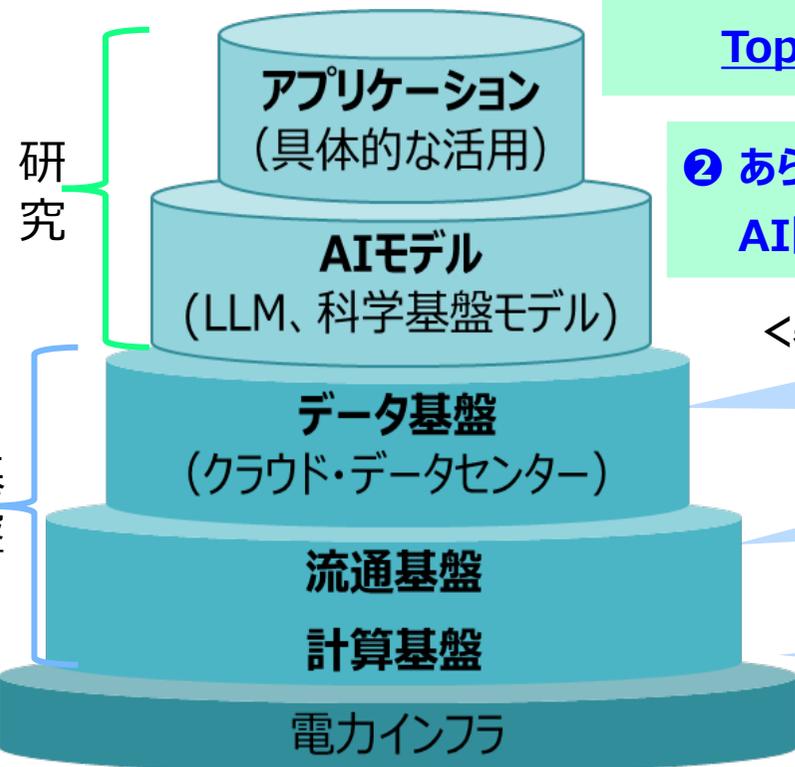
AI for Scienceの波及・振興
による科学研究力の底上げ

<基盤>

③ 研究データ基盤システムNII RDCを2030年までに容量5倍、AI化
(※) NII Research Data Cloud

④ 学術情報ネットワークSINETを2028年までに2倍高速化
(※) Science Information NETwork

⑤ AI for Science 共用計算資源を2030年までに10倍以上に



- 日本の取るべき基本戦略は、日本の資産とリソースを最大限に活用し、勝ち筋になり得る分野等の研究力を世界のトップ水準に引き上げることにある。
- そのために、国としての推進体制を構築し、研究インフラ及び研究システムを抜本的に改革する。
- あらゆる分野へAI for Scienceを波及・浸透させ、**2030年には、全国どこでも誰でも、AIを駆使した高度な研究活動が可能となる社会を実現する。**